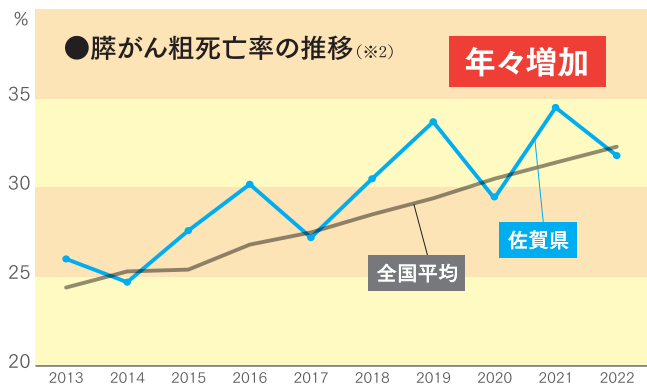




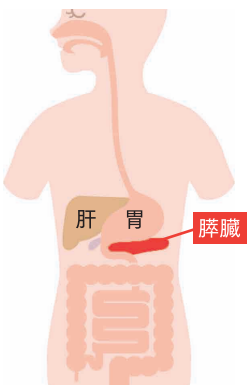
膵がんになる危険因子を知り半年に1度は検査

有名人のがん告白などで注目を集めるようになった膵がん。発見されたときはかなり進行していることが多く死亡率が高い「怖い」がんです。佐賀大学医学部胆膵臓先進医療学講座寄附講座の白鳥俊康准教授に、膵臓の役割や膵がんの危険因子などについて聞きました。



膵がんは小さい状態は見つかりにくく、大きくなってから見つかることが多いため、手術可能な状況で発見されても5年生存率が60%以下と低いです。膵臓のそばには太い血管や重要な臓器があり、それらががんが絡みついて遠隔転移がなくても手術ができなことも多々あります。罹患率は全体では低いのですが、死亡率が高く、「膵がんは怖い」と言われるのはそのためです。

膵臓はおなかの表面から一番遠い後腹膜(胃の後ろ)にあり、検査でも病気が見つかりにくい場所にあります。



早期発見でも高い死亡率

生活習慣の乱れが膵がんの危険因子に

膵臓はインスリンなどのホルモンや消化液を作る臓器です。膵臓の真ん中には消化液の通り道になる「膵管」が通っています。ほとんどの膵がんが膵管にできます。

ただ近年、罹患率も死亡率も増加傾向にあります。私見ですが、検査機器の進化で膵がんが見つかりやすくなったことや、高齢者がかかることが多いことから、高齢化社会を迎えて高齢者が増えたことも一因だと思います。佐賀県は75歳未満の年齢調整死亡率は全国でトップ(※3)。高齢化が進む日本では、膵がんを意識する必要がありますと感じています。

小さな発見が鍵

1センチ以下の小さい膵がんであれば、5年生存率が80%という報告があります。小さい膵がんを発

見するためには検査をしっかり受ける必要があります。膵がんの危険因子を把握して、かかりつけ医や地域のクリニックでおなかのエコー検査を受けてください。自治体や企業の健診でも任意で受けることができます。受診結果で何らかの指摘を受けたら精密検査を受けてください。精密検査には、MRIや造影CT、超音波内視鏡検査があります。検査で膵がんが見つからなくても、遺伝性膵がんの危険性がある人や、検査で膵嚢胞(のうほう)を認めた人は、半年に1度の検査をお勧めします。

膵がんの典型的な症状というのはなく、早期の場合、症状はほとんどありません。進行するとおなかの痛みや黄疸(おうだん)が出るなどの症状が出てきますが、症状が出てからでは遅いです。1センチ以下の小さな膵がんを早期発見し早期治療するためにも、積極的に検査を受けるようにしましょう。

さらに、糖尿病があればリスクは2倍になります。糖尿病を急に発症したり、急速に悪化した場合、膵がんが見つかる可能性が高いと言われています。膵がんによって血糖コントロールが悪くなったためと考えられるからです。

膵がん患者の3〜10%は家族からの遺伝もあるという報告もあります。例えば家族に膵がん患者が1人いるとリスクは4・5倍になると言われています。



佐賀大学医学部附属病院 白鳥 俊康 先生

膵がんの危険因子

- 肥満
- 糖尿病
- 喫煙
- 膵嚢胞
- 飲酒
- 家族に膵がん患者がいる

(※2)政府統計の総合窓口(e-Stat) (https://www.e-stat.go.jp/)「人口動態調査」を基に佐賀県 健康福祉部 健康福祉政策課 がん撲滅特別対策室が算出・作成

独立行政法人国立病院機構

東佐賀病院

地域の病む人々に常に寄り添い 安全で質の高い医療を提供し 信頼・安心していただける病院をめざします

■地域医療支援病院 ■二次救急医療

三養基郡みやき町大字原古賀7324

TEL0942-94-2048

ホームページ

診療科

- ◇呼吸器内科
- ◇循環器内科
- ◇消化器内科
- ◇糖尿病・内分泌内科
- ◇小児科
- ◇外科
- ◇整形外科
- ◇肝臓内科

診療時間等

受付は 8:30~11:30(一般外来)となります
※小児科は 14:00~16:30も受け付けます

診療時間	月	火	水	木	金	土	日/祝
8:30~17:15	●	●	●	●	●	-	-

※一部診療科予約制 ※科によって異なる・臨時休診あり
※初診時紹介状なしの場合別途料金負担あり